

海に、空に、放射能を垂れ流さないで！

生産者と消費者が共につくる再処理工場阻止運動

グリーンコープは生活クラブ生協や大地を守る会、日本消費者連盟など、青森県六ヶ所村にある核燃料再処理工場の本格稼働に反対する団体と共に「六ヶ所再処理工場」に反対し、放射能汚染を阻止する全国ネットワーク（以下全国ネットワーク）を結成し、独自の取り組みをはじめました。全国ネットワークには500以上のメーカーや生産者団体なども賛同団体として名前を連ねています。

全国ネットワークの運動は、「キックオフ集会in東京」（7月28日）を皮切りに、8月25日には現地青森における全国集会へと大きなうねりをつくり出しています。この間の取り組みについて、報告します。



グリーンコープ共同体の吉田文子代表理事をはじめ各会員、生協の理事長らが再処理工場反対の思いを国や関係自治体に届ける「メッセージカード」の取り組みを呼びかけた

「いのち」を原点に
力強く運動がスタート

全国ネットワークの運動の蹴り出しである「キックオフ集会」に集まった約300人の参加者で会場があふれました。

基調講演の講師は原子力資料情報室の澤井正子さん。再処理工場から廃棄される放射性物質の危険性をテーマに話がありました。再処理工場は放射能を垂れ流してしまおう構造になっており、日本原燃や青森県もその事実を承知していることが分かりました。しかもその排出量は普通の原発一基が1年間で排出する量を1日で排出するといわれています。大気中にはクリプトン85や

炭素14など、海中へはトリチウムやヨウ素129など、多種の放射能が放出されます。それは最終、農産物や海産物をおとして私たちの身体に蓄積されていくことになるのです。

そのような状況を危惧して立ち上がった岩手県重茂漁協をはじめとする漁業協同組合の生産者からも参加しました。放射能の垂れ流しは「死活問題」であるとして、断固闘うという意志をアピールしました。

また、放射能汚染の実態を自主的に監視していくために、自主的検査体制を構築するという提案もされました。そのほか、再処理工場反対の意思を政府や自治体に届けるメッセージカードや署名運動など、盛りだくさんの取り組みが紹介され、本格稼働阻止に向け熱気にあふれた集会となりました。

自然豊かな街に
全国から仲間が集結し
再処理にNO!

青森集会へは、鹿児島から北海道まで全国から同じ思いを持つ仲間ら約350人が集まりました。

集会前に青森市街地での街頭行動を行い、道行く人に再処理工場の危険性を力強くアピールしました。大型バス2台で駆けつけた重茂漁協の大漁旗や各団体のぼり旗が風に揺れながらのパレードは圧巻でした。

青森集会にはあふれんばかりの文化会館となった青森市



集会の終盤、会場全体が「絶対阻止したい」との思いを意思一致させると共に集会の成功を確認しあった

全国各地からの参加団体の代表がそれぞれの立場で再処理工場への思いをアピールした。グリーンコープの代表として、グリーンコープ生協協会の田中裕子理事長が「玄海原発のプルサーマルと六ヶ所再処理工場は表裏の関係にある。再処理工場を阻止できればプルサーマルが止まる。共に頑張りましょう」とアピールした。

再処理工場に関する現状報告として、3人の科学者から問題提起がありました。小出裕章さん（京都大学原子炉実験所）からは、東海村のJCO臨界事故の悲惨なようすの報告をおして「日本原燃や国は少しくらい放射能を垂れ流しても大丈夫だと言うが、どんなに低レベルでも放射能は危険。特に子どもは被害を受けやすい」と何としても子どもを守る必要があることを強調しました。

署名活動にも取り組んでおり、組合員から寄せられた署名を内閣総理大臣や経済産業大臣へ届ける準備をしています。耐震計算ミスなどにより本格稼働が来年2月に延期になりました。今後も稼働阻止を求めて、さまざまな取り組みを展開していきます。

再処理工場に関する現状報告として、3人の科学者から問題提起がありました。小出裕章さん（京都大学原子炉実験所）からは、東海村のJCO臨界事故の悲惨なようすの報告をおして「日本原燃や国は少しくらい放射能を垂れ流しても大丈夫だと言うが、どんなに低レベルでも放射能は危険。特に子どもは被害を受けやすい」と何としても子どもを守る必要があることを強調しました。

署名活動にも取り組んでおり、組合員から寄せられた署名を内閣総理大臣や経済産業大臣へ届ける準備をしています。耐震計算ミスなどにより本格稼働が来年2月に延期になりました。今後も稼働阻止を求めて、さまざまな取り組みを展開していきます。

チェルノブイリ原発事故から食べものを考えようという視点で話がありました。「六ヶ所再処理工場で事故が起こったらチェルノブイリの比どころではない」「再処理工場を稼働させてしまうことは推進側や無関心な人も含め、この世代すべての人が「共同正犯だ」と力説しました。

海洋学者の水口憲哉さんからは、「このまま稼働したら六ヶ所村から放射性廃液が放出される。海は汚染され、その範囲は首都圏まで及ぶという実験結果が出ている」「海の汚染という点で、現在サーファーが運動に関心を持って取り組んでいる。この種を育てて、大きな広がりをつくっていくこと、知らない人に知らせることが大切。今からでも遅くない、共に頑張りましょう」と会場にエールを送りました。

青森現地の反対運動団体の代表者からも報告がありました。

再処理工場内の装置2台の耐震計算ミスが大きく報じられたことを例にあげ、「新潟県の柏崎・刈羽原発で起こったことは六ヶ所でも起きることが想定できる」とデータ隠しを非難しました。また、「核燃料施設の下や近くには多くの活断層が走っている。必ず止めなければ大変なことになる」と稼働阻止を訴えていくことの重要性を訴えました。

全国から集まった仲間によるリレートークもあり、各団体の代表がそれぞれ趣向を凝らしアピールをしました。最後に、「いのち、豊かな自然、食べものを守るために、放射能汚染をもたらず再処理工場の稼働中止を強く求めていきたいと思います」と集会アピールを採択しました。

核燃料サイクル施設内に活断層が見つかった。耐震計算のミスも発覚！